



神宮寺便り

平成26年11月
第15号

発行 普天満山 神宮寺

宜野湾市普天間1-27-11

098-892-3335

秋の夜長になり、読書したり、映画を観たり、充実した時間が過ごせます。

また、先月十月二十四日からユンチチ(閏月)に入りました。位牌やお墓の改修や移動等に適した時期ですので、お悩みの方は、お気軽に当寺にご連絡下さい。
尚、ユンチチは今月二十一日までです。

法事・お位牌について

裕俊

近頃、お位牌の継承者がいない事による永代供養のご相談や、年配の方から継承者がいない訳ではないが、きちんと仏事ができるか心配なので、自分が生きている間に法事を済ませてしまいたい、というご相談があります。各家庭様々なご事情があるかとは思いますが、まだ本来の行くべき年が来ていないのに、法事を繰り上げて済ませるといふ事は、本当にきちんとしているのでしょうか。

お位牌は日々のお供えをして、法事を行っておけば完璧・・・という訳ではありません。皆様のお子さん、お孫さんに引き継ぐ為に、法事、行事のお供えの飾り方、普段の拝み方などを伝えなければなりません。

その引き継ぎを行う上で一番大切な事は、お子さんやお孫さんに、「お位牌に入っているご先祖様はどういう人だったんだよ。」「こういう事があったんだよ。」とご存命中のお話をして、お位牌に愛着を持っていただく事だと思います。

特に法事は一番いい機会ですので、お坊さんの読経が済んだから終わり、という事ではなく、是非ご家族の皆様で故人を偲び語り合う事を行っていただきたいと思えます。

弘法大師のことば

良啓

生れ生れ生れて生の始めに暗く、
死に死に死んで死の終わりに冥し。

秘蔵宝鑰巻上

人はどこから来て、どこに行くのかを知らない、哀しい生き物です。

お大師様は、「くらい」と言う言葉を「暗」と「冥」と言う違う漢字を使っています。

「暗」は、覚えていないと言うニュアンスです。人は経験を頼りに思考する生き物です。その為、覚えていないと不安になります。「冥」は、予想出来ないというニュアンスです。人は予想外の事に出会うと、ストレス過多になります。

人は生れて死ぬ、ただそれだけです。その純然たる事実をありのままに受け入れ、人生の中に仏を見出し、そこに向かって歩み続けると、生の始めを思い出し、死後の不安を取り除く事が出来ます。

私達は、どうやっても分からない「どこから来てどこに行くのか」と言う事に無駄に時間をかけるのではなく、をどうやって日々を過ごすのかを考え、行動することが大事です。

❁11月の神宮寺❁

11月6日(木) 学ぶ会 19時～ 本堂にて 在家勤行法則読経など

❁12月の神宮寺❁

12月4日(木) 学ぶ会 19時～ 在家勤行法則読経など

12月13・14・15日(土～月) 野外劇団楽市楽座公演「虹をわたって」

19時開演(18時半開場) チラシをご覧ください

12月31日(水) 除夜の鐘付き

お問い合わせは 892-3335 神宮寺まで